

氏名	李 愛俐娥
職位	COE 研究員
研究概要 <p>2009年度は7月下旬から8月上旬にかけての3週間、異なる点が多い沿海州とサハリンで暮らすコリアンコミュニティの近況を調査した。</p> <p>沿海州では多国籍・多文化のコリアンがそれぞれ別のコミュニティを形成しており、おかれている環境や問題によって、相互に協力、あるいは競争する関係にある。サハリンのコリアンは、沿海州を含む旧ソ連各地のコリアンとは移住時期や理由が異なり、コミュニティが抱えている問題にも大きなちがいがあある。</p> <p>出稼ぎで沿海州に来ているコリアンすなわち、中国朝鮮族については2005年から調査しており、今回はハバロフスクから揮春までバスで移動して中ロ国境の出入国状況を調査した。また、ソ連崩壊前から沿海州に住んでいる高麗人の、ここ20年間の変化と現在の生活上の問題について聞き取り調査を行った。</p> <p>一方、サハリンでは「離散」をテーマに聞き取り調査を実施した。サハリンのコリアンが経験した離散には、①1930年代の朝鮮半島からの強制連行による離散、②ソ連時代に行われた北朝鮮への政策的帰国による離散、③サハリンからソ連各地に移住した家族との離散、④強制連行世代の韓国への帰国による離散、⑤若い世代が韓国へ出稼ぎに行ったことによる離散などがある。④については、家族に会うためサハリンに一時滞在している老人たちにも、帰国後の家族関係や本人の生活の変化についてインタビューをした。</p>	